

年表

<p>四月十五日 明治八年 熊本鎮守歩兵第二十五大隊を基本として歩兵第十三聯隊を相成(二大隊編制) 熊本城四ノ丸に屯在</p> <p>九月九日 宮中に於て軍旗を授與せらる</p> <p>十月六日 山崎練兵場に於て軍旗授式舉行</p> <p>十一月十五日 陸軍少將東伏見宮嘉彰親王殿下諸侯檢閲</p> <p>同 九 年</p> <p>四月十五日 第三大隊増設 城南御花畑舊和川邸に分屯</p> <p>十月廿四日 夜半強風暴の變起り、暴徒兵營及聯隊長の宅を奇襲す 聯隊長負傷し軍旗一時敵手に落つ 勇卒隈部幸作軍旗を奪還、佐武中尉奉還中負傷して軍旗鮮血に染む</p> <p>同 月廿五日 午前二時全く暴徒を駆退す</p>	<p>同 月廿八日 秋月の亂起り、二中隊を久留米に派して警戒す</p> <p>同 十 年</p> <p>二月十五日 四郷隆盛、私學校生徒及舊兵隊一萬五千を率ゐて鹿兒島出發北上す 賊徒征討の大詔煥發せらる</p> <p>同 月十九日 熊本城一部の出火天守臺及バ糧、全部を焼失し城外民家に延焼す 小倉歩兵第十四聯隊の一部入城す 熊本城を包圍す 附長籠城戦</p> <p>同 月廿二日 聯隊長與倉中佐負傷(同夜傷死す) 川上少佐(操六)代つて聯隊を指揮す</p> <p>三月十二日より十三日まで 城兵出撃段山を攻め激戦三日迄に之を占領す</p> <p>四月九日 奥少佐(保繁)決死隊を率ゐ、重圍を突破し、宇土に到り救援軍と連絡す</p>
---	---

三十歩 (1)

0049

同 月十五日	教授軍、陣圍を破りて入城す	五 月	第三大隊第一中隊沖繩に分遣
同 月二十日	以後官軍は勢迫りに移り、勝隊は軍の最右翼となりて進軍	同 月二十一日	第二中隊を第九中隊と交代沖繩へ分遣
九 月廿四日	徳軍、三田井、竹田、白村、赤松峠、可愛嶽等に攻戦す	同 月二十二日	熊本鎮座を第六師團と改稱
十 月六日	熊本に凱旋す	同 月二十九日	第二中隊沖繩より歸還
同 月十五日	聯隊(第一大隊缺)之に参加す	同 月二十九日	第十中隊沖繩へ分遣
同 月三十日	勅令下す	十二月八日	北白川宮能久親王殿下第六師團長に補せられ同月廿九日着任し給ふ
九 月四日	勅令解除	同 月	二十七年
同 月十日	第一大隊第一中隊對馬に分遣	五 月八日	米田侍從勲を奉じ管内巡視
五 月二十日	第二大隊第一中隊琉球に分遣	同 月廿一日	第十中隊、沖繩より歸還
同 月同日	歩兵第十一旅團の編制に入る	七 月廿四日	勅令下す
六 月九日	第一大隊第一中隊對馬より歸還	八 月一日	清國に對し宣戦布告
同 月二十日		十 月廿三日	屯營出發編團に對り待命
同 月二十日		十二月廿九日	第二軍機閣序列を命ぜられ、廿一日編團出發

同 二十八年	
一月二日	小倉に集結
一月十二日	小倉出發、同日門司出帆、十五日大連海に到着、二十二日同歸解纜
一月廿三日	山東省榮城縣龍睡湖に上陸
一月廿八日	威海衛陸面砲臺を攻撃
二月一日	聯隊は膠州嶺砲臺及揚味嶺砲臺を攻略以後成山附近に駐留
二月十二日	北洋艦隊降伏、丁汝昌自盡す
二月下旬	旅順口に集中
四月十七日	講和條約成る
四月廿一日	平和克復の大詔優待
五月十日	遼東中島還附の詔勅公布
五月十三日	陸海軍人に勅諭を賜ふ
五月十七日	第二軍戰鬥序列を解かる
五月二十日	第三大隊を威海衛に派す
十一月下旬	旅順口出發、威海衛に渡航 爾後同地の守備に任ず
同 二十九年	
六月五日	守備の任を了り威海衛出發
八月八日	屯營に駐屯
同 三十年	
八月廿一日	第一大隊臺灣守備の爲出發 臺北、大科坎に分屯
十一月	特別大演習
同 三十一年	
九月十日	第一大隊臺灣より歸營
十月一日	爾後臺灣混成一中隊を年々交代派遣する 事となり、第六大隊第一中隊として石光 見に駐屯、守備に服務す
十二月廿九日	恒春分遣隊土匪の重圍に陥る
同 月廿一日	重圍を突破して救援軍と連絡す
同 三十三年	
十月廿二日	皇太子殿下宮兵營に行啓
同 三十五年	

五月廿一日	臺灣浪遊隊、土匪の巢窟を襲ひ之を破壊す
十二月十一日より十四日まで	特別大演習
同 三十七年	
二月十日	露國に對し賞勳布告
五月十九日	勅員下令
同 月廿六日	有栖川宮威仁親王殿下來營勅員業務賞視
同 月廿七日	勅員賞給
六月十二日	出征の目的を以て屯營出發
同 月十三日より十四日まで	長崎港出帆
同 月十七日より十八日まで	遼東平島三官廟(遼大決)に上陸
同 月二十日	劉家屯に達し第二軍の隸下に入る
七月八日より九日まで	爾後敵を追撃じつ、北進
同 月廿三日より廿五日まで	蓋平附近の戦闘
同 月廿六日	遼陽附近の合戦
八月三十日	廿一日首山嶺の強襲に参加し
同 月十六日	奮戦す、浪子街に前進、爾後同地に駐軍
同 月十五日	沙河附近の合戦
同 月十六日	十二日浪子街に奮戦し、傷状を授與せらる、以後拉木屯附近に陣地を構成して滯陣
同 三十八年	
一月一日	拉木屯四週丘上の一小家屋に陣中新年を迎ふ
二月十一日	恩賜の煙草、菓子をお配せらる
同 三月十一日	奉天附近の大合戦
十月	十日魚鱗堡附近に激戦す
十一月	十一日以後木陵附近に滯陣
同 月廿五日	第二軍を脱し第四軍隊開隊列を命ぜらる
同 月廿一日	開原附近に前進、第一線守備に任ず
九月十六日	正午以降休戦實施
十月十六日	平和克復の大演習、同時陸海軍人に勅諭を下し賜ふ

<p>同 三十九年</p> <p>二月廿四日 宿營地出發</p> <p>三月十日より十二日まで 屯營に凱旋</p> <p>同 三月十六日 復員完結</p> <p>四月三十日 凱旋大觀兵式舉行。軍旗及代表隊參加</p> <p>十月二十日 特命檢閲(乃木大將)</p> <p>同 四十年</p> <p>九月十一日 特命檢閲(川村大將)</p> <p>同 四十一年</p> <p>七月十二日より十四日まで 特命檢閲(黒木大將)</p> <p>十一月一日 屯營出發</p> <p>同 十一月五日 龍山君</p> <p>同 十一月五日 より四十二年四月まで 韓國守備</p> <p>同 四十三年</p> <p>四月十九日 侍從武官(山根中佐)來營 聖旨並恩賜品 を傳達せらる</p> <p>四月廿九日より三十日まで 駐屯地出發</p>	<p>五月三日より四日まで 屯營歸還</p> <p>九月廿八日 兩國名譽射擊施行。優勝旗及賞状を授與 さる</p> <p>同 四十四年</p> <p>五月九日より十日まで 特命檢閲(伏見大將宮)</p> <p>十一月十一日より十四日まで 特別大演習</p> <p>同 四十五年</p> <p>四月二日 第八中隊朝鮮派遣</p> <p>七月三十日 明治天皇崩御 今上天皇踐祚</p> <p>大正元年</p> <p>七月廿二日 陸海陸大に勅諭を下し賜ふ</p> <p>九月十三日 明治天皇御大葬儀施行、軍旗及代表者参 列</p> <p>同 三十二年</p> <p>四月十一日 皇太后崩御</p> <p>同 四月廿四日 第八中隊朝鮮より歸還</p> <p>五月廿四日 昭憲皇太后御大葬、代表者参列</p>
--	---

<p>同月七日より八月まで 特命檢閲(川村元帥)</p> <p>十二月廿五日 第七中隊中支那派遣(四年九月廿八日歸營)</p> <p>同 四 年</p> <p>二月五日 侍從武官(田中大佐)來營</p> <p>九月十日 第四中隊中支那派遣(五年十月五日歸營)</p> <p>十月十六日 御眞影拜受</p> <p>十一月十日 御即位大禮、遣拜式舉行</p> <p>十二月二日 大禮觀兵式舉行、軍旗及代表隊參列</p> <p>同 五 年</p> <p>二月廿九日 皇太子殿下御寫眞拜受</p> <p>四月十四日 第六中隊新設歩兵第七十八聯隊へ轉出</p> <p>九月十四日 第十二中隊中支那派遣(六年十月九日歸營)</p> <p>十一月十一日より十四日まで 特別大演習</p> <p>同 六 年</p> <p>四月廿三日 皇后陛下御寫眞拜受</p> <p>五月廿五日 朝香宮鳩彦王殿下御來營</p>	<p>九月十七日 第二中隊中支那派遣(七年十月十一日歸營)</p> <p>十二月二日 檢閲錢隊増設</p> <p>同 七 年</p> <p>四月一日 第六中隊補填編成</p> <p>五月 特命檢閲(井口省吾)</p> <p>九月廿一日 第十中隊、中支那派遣(八年十月二十日歸營)</p> <p>同 八 年</p> <p>九月廿八日 第五中隊、中支那派遣(九年十月歸營)</p> <p>同 九 年</p> <p>一月十三日 平和克復に付、勳章を賜ふ</p> <p>十一月十二日より十四日まで 特別大演習</p> <p>同 十 年</p> <p>三月三日 皇太子殿下御淺敷</p> <p>九月三日 皇太子殿下御歸朝</p> <p>同 十 一 年</p>
---	--

<p>五月十七日 山梨陸軍大將來營 八月十五日 軍縮整理、第四・第八・第十二中隊廢止 同 十二年 一月十日 新兵入營日變更後第一回入營</p>	
--	--

歩十三(7)

0055

明治天皇御製

國たみの力のかきりつくこそ

わか日の本の固めなりけれ

子等は皆戦のには出てはて

おきなや獨り山田守らむ

石たゝみ堅きとりてもいくさ人

みをすてゝこそ打碎きけれ

0056